

品質・環境報告書

2022



中京化成工業株式会社

活動レポート(品質・環境) - 2022 -

中京化成工業(株)は、1999年11月26日にISO9001の認証取得に続き、

2004年6月18日にISO14001の認証を取得しました。

継続運用している中で2015年版改訂にも早期に対応し、2016年にISO9001を2017年にISO14001の移行を完了しております。

2019年度より品質と環境マネジメントシステムの統合された計画・運用に努めて参りました。

2022年度は次なるステージに向け、統合マネジメントシステムの確実な運用を実施し、効率化を目指した結果、セカンドステージにステップアップする事が出来ました。

品質・環境方針 / 品質・環境目標

品質・環境方針

当社は、品質・環境マネジメントシステムの最上位の「基本方針」に当社の取り組む決意と姿勢を表明すると同時に、より具体的に、かつISO9001、ISO14001規格に適合した「品質・環境方針」をまとめて制定しております。

「品質・環境方針」 2016年6月制定

品質基本方針

- ① 我社の製品は常に優秀である。
- ② 我社は製品の品質で勝負する。

環境基本方針

- ① 我社は自然と共生することに最大の関心を払う。
- ② 我社は環境配慮型製品の開発を進める。

品質・環境方針

1. 当社の各事業活動、製品及びサービスを踏まえた品質・環境マネジメントシステムを構築します。また、蓄積された潤滑理論をベースに自動車関連、グリース関連、工業用機械関連、金属加工関連、離型・剥離剤関連、洗浄剤関連などの分野で顧客と地域社会に貢献します。
2. 変化する諸条件及び情報を反映した品質・環境目標を事業年度毎に設定し、運用し、定期的に見直すことにより、品質・環境マネジメントシステムの有効性の継続的改善に努めます。
3. 環境法規、条例、規制や当社が合意したその他の要求事項を順守します。
4. 顧客満足の上昇、環境負荷の低減と汚染の予防及び環境保護に努めます。
5. 全従業員に教育訓練と啓蒙活動を実施すると共に、ビジネスパートナーに対しても理解を求め協力して運用します。

品質・環境マネジメントシステムの適用範囲

本品質・環境マネジメントシステムは「取り組みの計画策定シート」の記載内容を考慮し、その適用範囲は各種潤滑油、金属加工油、グリース、不凍液、離型剤などの製品の設計、開発、製造、引渡しにわたる品質・環境に関わる全ての業務・サービスとします。

品質・環境に関するサイトは本社・工場（中京化成工業株式会社 愛知県刈谷市今岡町西吹戸10番地1）のみとします。

この方針及び適用範囲は、文書化し広く一般に開示します。

2016. 6. 1

中京化成工業株式会社
代表取締役社長
廣野 拓

2022年度 品質・環境目標

「品質・環境方針」をベースに、当社の活動・製品・サービスから特定された「著しい環境側面」、法的及びその他の要求事項、当社を取り巻く内外の課題、更に利害関係者のニーズと期待より、「リスクおよび機会」を特定しております。さらにこれを考慮して各年度に「全社目標」、「品質・環境目標」を決めて対応し、その施策の実現に取り組んでおります。

全社目標（品質）

- ① 顧客重視
- ② 品質（Q、C、D）管理の向上
- ③ 供給者との互惠関係の強化
- ④ 予防処置

全社目標（環境）

- ① 環境配慮型製品の開発と販売促進
- ② 資源・エネルギー・廃棄物の削減
- ③ 法規制及び組織が同意するその他の要求事項の順守
- ④ 予防処置

部 門		品質・環境目標	
		内 容	目 標 値
営業部 潤滑油グループ		顧客の要望している環境配慮型製品の販売 (① エンジンオイル：省燃費エンジンオイル ② 鍛造油：油煙対策油・汚れ対策油・各種化学物質非含有量・再生油・ボンデフリープレス油・塩素フリープレス油)	年間売上 18,500万円
営業部 化成品グループ		顧客の要望している環境配慮型製品の開発・拡販 (水溶性離型剤（ラッシュコート）・水溶性エアゾール)	年間売上 5,000万円
業務購買部		出荷完了時間 17：00	100%
		外注先要因によるクレーム防止	0件
製造部		不良品流出（製造部起因）	0件
		労働生産性向上（生産性/労働時間）	5.0%（217.4kg）
技術 研究 所	潤滑油 グループ	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	2,200万円
	化成品 グループ	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	1,100万円
	合計	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	3,300万円
品質保証部		調整件数の削減	3件以下
		電気使用量の削減	2021年度以下
総務部		顧客重視	10件（2件/人）

2022年度 品質・環境目標&実績

各関係部門において「品質・環境目標」を設定し、その達成に向けて取り組みました。仔細は次頁の通り。

		部 門	環境目的	目標	実績	評価
1. 増 業績の向上	営業部 潤滑油グループ		顧客の要望している環境配慮型製品の販売	年間 18,500 万円	18,821 万円	(^_^)
	営業部 化成品グループ		顧客の要望している環境配慮型製品の開発、拡販	年間 5,000 万円	4,890 万円	(^_^)
	技 術 研 究 所	潤滑油グループ	<10月是正により年間目標下方修正> 顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	年間 2,200 万円	1,814 万円	m(_ _)m
		化成品グループ	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	年間 1,100 万円	776 万円	m(_ _)m
		合計	顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	年間 3,300 万円	2,590 万円	m(_ _)m
	製造部		労働生産性向上 5.0%アップ（生産量/労働時間）	216.7 kg/h	203.8 kg/h	(^_^)
	品質保証部		調整件数削減	年間 3 件以下	3 件	(^_^)
	総務部		顧客重視（手順書の作成及びブラッシュアップ）	10 件（2 件/人）	10 件	(^_^)
2. 減 不具合の削減	業務購買部	外注先要因によるクレーム防止	0 件	4 件	m(_ _)m	
		出荷完了時間 17:00	100%	84/235	m(_ _)m	
	製造部	不良品流出【製造部起因】	0 件	1 件	m(_ _)m	
	品質保証部	電気使用量の削減	2021 年度実績以下 (38.3kW/LOT)	36.6kW/LOT	(^_^)	

評価の凡例

\(\circ\)/ : 目標値を 10%以上達成しました！
 (^_^) : ほぼ目標値
 m(_ _)m : 目標値の 90%以下に終わりました

各部のコメント

テーマ	部門	達成率 (目標対比)	コメント
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業部 潤滑油グループ	101.7%	昨年度に引き続き本年度も目標達成となりました。次年度も目標達成出来る様、同案件を継続して取り組んで参ります。
顧客の要望している環境配慮型製品の販売	営業部 化成品グループ	97.8%	自動車業界の低迷もあり拡販しきれなかったため目標を達成できませんでした。次年度はフッ素原料廃止に伴う、代替品への切り替え活動が目標達成に向けたポイントとなりますのでスムーズに行い拡販に取り組んで参ります。
顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	技術研究所 潤滑油グループ	82.5% <10月目標下方修正> 1,700万円 106.8%	ユーザー様や営業部との連携が上手くいかなかった事が目標未達の要因と考えます。若手研究員を中心としたユーザー訪問回数増加とプロジェクトチームによる進捗管理を密に行い早期実績計上に努め目標達成に取り組んで参ります。
顧客要望を取り入れた環境配慮型製品の開発	技術研究所 化成品グループ	70.5%	ユーザーテストまで行った開発品が少なかった事と開発時間が十分にとれなかった事が目標未達の要因です。次年度は効率的な開発に取り組み、テーマアップ会議や技術研究所主体での開発活動に力を入れて取り組みます。
調整件数の削減	品質保証部	100%	今年度は目標3件以下と非常に厳しい目標でしたが、何とか目標内で終わることができました。やはりPDS化の恩恵が大きく、非常に役に立っていました。次年度のさらに厳しい目標に取り組むにはPDSの整備に加え製造部員の意識にも大きく依存します。関連部門と協力して目標を達成出来るよう努めて参ります。
顧客重視 (手順書の作成及びブラッシュアップ) ワークシェアを進めて多能工化を目指す	総務部	100%	部員間のワークシェアを進めて、担当者が不在時に業務が滞り顧客様に迷惑をお掛けしない事を目指し、目標に取り組めました。作成したマニュアルの活用は実績も出てきており、有効性は十分にあると感じております。次年度も継続して活動していきます。

各部のコメント

テーマ	部門	達成率（目標対比）	コメント
外注先要因によるクレーム防止	業務購買部	4件	今年度もエアゾール品によるクレームが4件発生しました。それぞれ原因は違いますので一つ一つ対策を行って再発を防ぐと共に、次年度はエアゾール品に特化して新製品や仕様書変更時に、品質保証部や技術研究所と打ち合わせを必ず実施し事前に抑えられる事をしっかりと確認して参ります。
出荷完了時間 17:00	業務購買部	35.7%	目標未達の原因として運送会社の遅れが課題でしたので、依頼書や物流調整を行った事により次年度につながる結果を得られました。2024年問題に向けて次年度は路線会社別にデータ集計を実施、路線会社へ申し入れを行う事により目的達成を目指します。
不良品流出【製造部起因】	製造部	1件	残念ながら不良品を1件流出させてしまいました。年々減少傾向にあります。ルールを順守する事が最善の予防である事が部員に浸透したためと考えております。次年度はルールの見直しと対策に抜けがないか検証を行い予防に努めて参ります。
労働生産性向上 5.0%アップ (生産性/労働時間)	製造部	94.0%	目標設定に対する根拠が乏しく、年度途中で1名増員した事の影響を考慮出来ていなかった事から目標値にも問題があったと考えております。次年度は運用（日常管理）へ切り替え、今年度との比較や毎月の依頼量と生産量との関係を引き続き監視測定して参ります。
電気使用量の削減	品質保証部	103.1%	2月～4月は使用量が多く目標未達が続きましたが、生産LOT数の増加にも助けられ使用量の増加を少しでも抑えることで夏ごろから徐々に達成出来る様になりました。次年度も厳しい状況になると予想されますので随時啓蒙活動などを行い目標達成に向け取り組んで参ります。

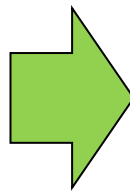
中京化成工業株式会社
品質・環境への各種取り組み



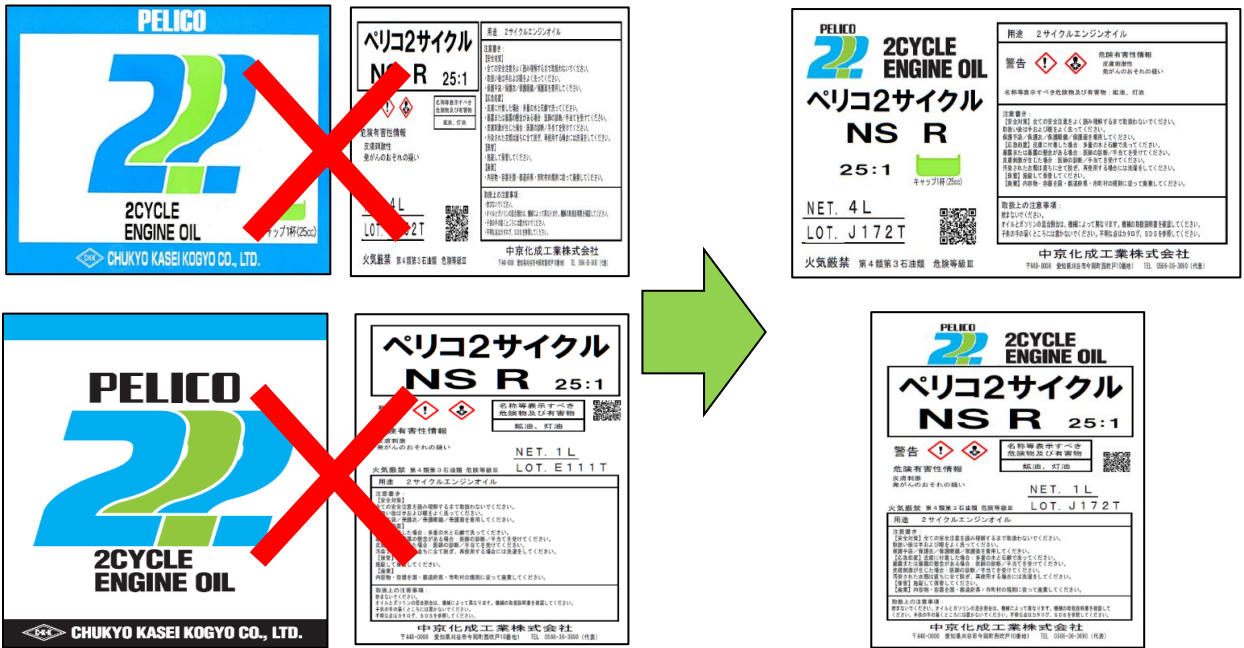
新倉庫設立



製造
ドラム管理方法
横置きから縦置き管理に改善



ラベル削減 2枚貼りを1枚貼りに変更



緊急事態への対応

- ・非常呼集, 消火訓練 (防災教育)





中京化成工業株式会社

CKK CHUKYO KASEI KOGYO CO., LTD.

ISO9001:2015 (JQA-QM3984)

ISO14001:2015 (JQA-EM4081)

〒448-0008

愛知県刈谷市今岡町西吹戸 10-1

TEL: (0566)36-3690 (代表)

FAX: (0566)36-6156

URL: <http://www.c-k-k.co.jp>

10-1, Nishifukido, Imaoka-cho

Kariya-City, Aichi-Pref., JAPAN

TEL: 0566-36-3690 (General Line)

FAX: 0566-36-6156